

長野県安曇野産スゲ属植物の新雑種

誌名	長野県自然保護研究所紀要 = Bulletin of Nagano Nature Conservation Research Institute
ISSN	13440780
巻/号	2
掲載ページ	p. 23-26
発行年月	1999年

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



長野県安曇野産スゲ属植物の新雑種

藤原 陸夫*

長野県南安曇郡穂高町において、イトスゲとニシノホンモンジスゲを推定両親とする自然雑種を見いだした。この新植物は外観的に、稈の高さ、葉の長さなど植物体の大きさが両親の中間を示している。また稈基部、雄花鱗片、雌花鱗片の色合いも両親の中間を示している。さらに瘦果は不成熟である。この新雑種を産地に因みアズミノイトスゲと新称する。

キーワード：スゲ属植物，イトスゲ×ニシノホンモンジスゲ，新雑種，長野県

1998年5月、長野県南安曇郡穂高町において、イトスゲ *Carex fernaldiana* H.Lév. et Van. とニシノホンモンジスゲ *C. stenostachys* Franch. et Sav. の自然雑種と考えられる新植物を発見した。推定両親は共にヌカスゲ節 *Praecoces* Christ, ホンモンジスゲ亜節 *Pisiformes* Akiyama に属し (秋山, 1955), 近縁な種と考えられている。

イトスゲの分布域は北海道西南部、本州、四国、九州、および朝鮮南部、台湾、中国、ニシノホンモンジスゲは日本 (本州の中部地方以西) に固有である (大井, 1992)。スゲ属植物は日本において数十種の種間雑種が記載されているが、イトスゲあるいはニシノホンモンジスゲを親とする雑種は知られていない (杉本, 1973)。

この新植物の生育地は一般に「安曇野」と称される地域の近傍にあり、*Carex* *azuminoensis* Fujiw. アズミノイトスゲの新名を用意した。

アズミノイトスゲ (Fig.1) は長野県南安曇郡穂高町の鳥川支流、川窪沢川上流部、北ノ沢の海拔約950mの地点で見いだした。

生育地の一部は主として造林地であるが、林床は比較的自然の状態を保持しており、推定両親のイトスゲとニシノホンモンジスゲは普遍的に生育している。

アズミノイトスゲは密に叢生し地下匍匐茎を欠く。稈は細く高さ25-30cm, 鈍三稜形で上部わずかに粗澁。葉は果期で稈とほぼ同長、偏平で幅0.8-1.5mm, 基部で少し内側に巻く。稈基部の鞘は褐色。小穂は通常3個、最下の小穂はやや隔離し、直立、頂小穂は雄性、線形で長さ1.5-2.0cm, 幅約1mm, 淡褐色、側小穂は雌生、狭長楕円形、長さ8-15mm, 幅約1.5mm, 10花内外をやや疎らにつける。最下の苞は葉状で小穂

より長く、基部は約1cmの鞘となる。雌花鱗片は狭長楕円形、淡褐色で中肋は緑色、長さ2.5mm内外、微突端。果胞は雌花鱗片と同長あるいはやや長く2.5mm-2.7mm, 菱状長楕円形、有脈、有毛、やや長喙となり、口部は2小歯がある。果は成熟しない。

アズミノイトスゲの稈高は25-30cmで、同所的に生育しているイトスゲ (10-20cm) とニシノホンモンジスゲ (35-45cm) の中間を示す。アズミノイトスゲの稈の上部はわずかに粗澁で、イトスゲ (平滑) とニシノホンモンジスゲ (粗澁) の中間を示す。アズミノイトスゲの稈基部の鞘は最長で約7cm, 基部は褐色で、イトスゲ (約5cm, 淡色~淡褐色) とニシノホンモンジスゲ (約8cm, 濃褐色) の中間を示す。アズミノイトスゲの葉の幅は0.8-1.5mmで、イトスゲ (0.4-0.8mm) とニシノホンモンジスゲ (2.0-3.0mm) の中間を示す。アズミノイトスゲの雄小穂の長さは1.5-2.0cmで、イトスゲ (1.0-1.5cm) とニシノホンモンジスゲ (2.0-2.5cm) の中間を示している (Fig.2)。また雄花鱗片と雌花鱗片および稈基部の鞘の色合いが両親の中間色を示している。以上がアズミノイトスゲを両親間の雑種と推定した主な根拠である。

さらに瘦果が発達せず不成熟であることが雑種性を強く示唆している。イトスゲ、アズミノイトスゲ、ニシノホンモンジスゲについて主な形態上の比較をTable 1に示した。

アズミノイトスゲは、地下に匍匐茎を欠くこと、果胞全体が有毛であることによりイトスゲから明確に区別できる (Fig.3)。一方、雄花鱗片と雌花鱗片および稈基部の鞘の色合いが、より淡色であることによりニシノホンモンジスゲから区別できる。

アズミノイトスゲについては今後さらに検討を加え、正式な記載をする予定である。

* 長野県自然保護研究所 〒381-0075 長野市北郷 2054-120



Fig. 1. *Carex azuminoensis* Fujiw.

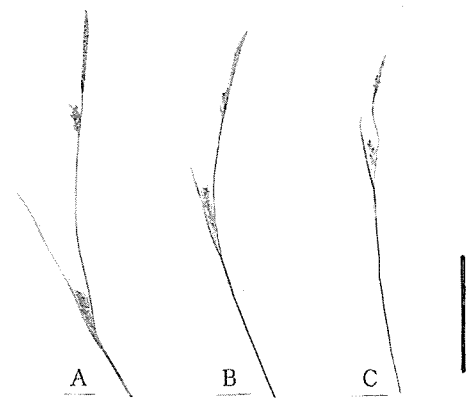


Fig. 2. Spikelets of *Carex fernaldiana* (A), *C. azuminoensis* (B), and *C. stenostachys* (C).

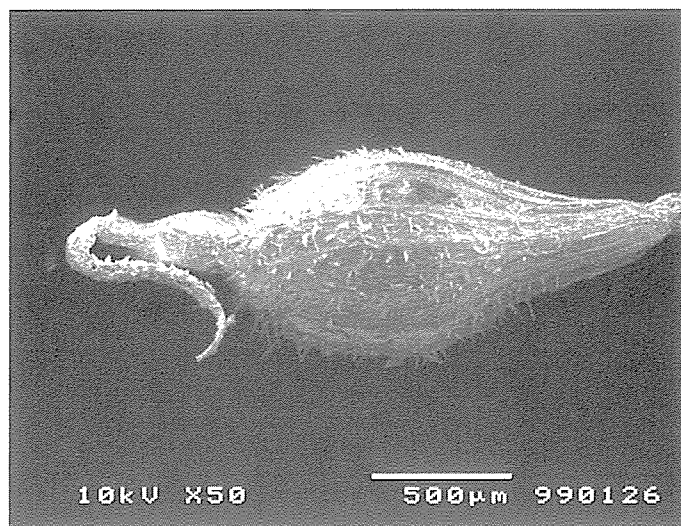
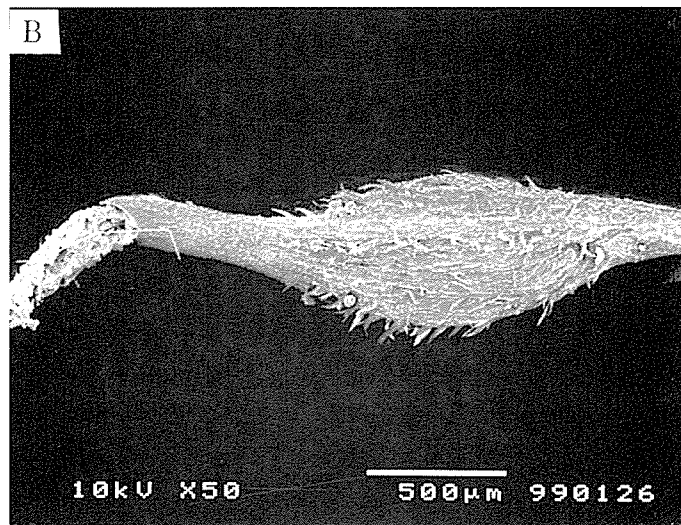
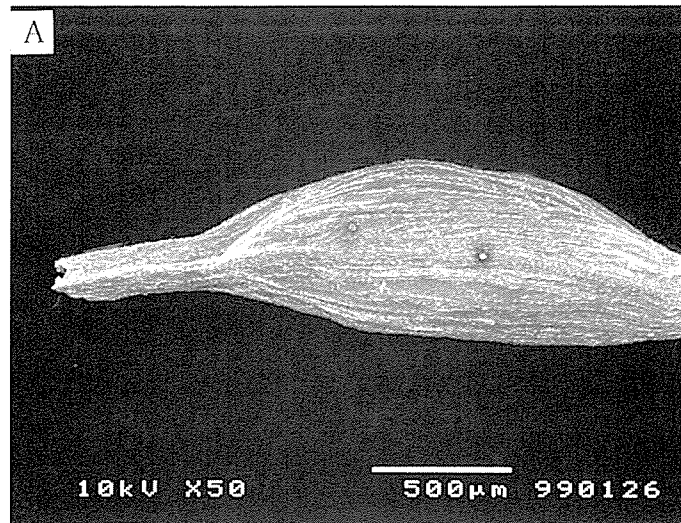


Fig. 3. Utricles of *Carex fernaldiana* (A), *C. azuminoensis* (B), and *C. stenostachys* (C).

Table. 1. Diagnostic characters in *Carex fernaldiana*, *C. ×azuminoensis* and *C. stenostachys*.

All were collected the Azumino Plain, Nagano Pref.

	<i>C. fernaldiana</i> イトスゲ	<i>C. ×azuminoensis</i> アズミノイトスゲ	<i>C. stenostachys</i> ニシノホンモンジスゲ
地下匍匐茎	有り	無し	無し
稈の高さ (cm)	10-20	25-30	35-45
稈上部	平滑	やや粗淡	粗淡
稈基鞘の長さ (cm)	-5	-7	-8
稈基鞘の色	淡色～淡褐色	褐色	濃褐色
葉の幅 (mm)	0.4-0.8	0.8-1.5	2.0-3.0
雄小穂の長さ (cm)	1.0-1.5	1.5-2.0	2.0-2.5
雌花鱗片	淡色	淡褐色	褐色
果胞	無毛	有毛	有毛
瘦果	成熟	不成熟	成熟

引用文献

秋山茂雄. 1955. 極東亜産スゲ属植物. 257pp. 北海道大学.
大井次三郎. 1992. 日本植物誌 (北川政夫改訂). 1716 pp. 至文堂.

杉本順一. 1973. 日本草本植物総検索誌. II 単子葉編. 630pp. 井上書店.

A New Hybrid of *Carex* from the Azumino Plain, Nagano Prefecture

Rikuo FUJIWARA

Nagano Nature Conservation Research Institute, 2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan

Abstract

A natural hybrid between *Carex fernaldiana* and *C. stenostachys* as assumed parents was found in Hotaka-machi, Minamiazumi-gun, Nagano Prefecture. This new hybrid shows stem height and leaf length and width intermediate between those of its assumed parents. The colors of the basal sheaths and glumes of male and female individuals are also intermediate between those of its the assumed parents. The achenes are not mature. This new hybrid was named *Carex ×azuminoensis*, from the place of discovery.

Key words: *Carex*, *C. fernaldiana* × *C. stenostachys*, new hybrid, Nagano Pref.